

## 聞こえない、聞こえにくいつてどういうこと？

狛江市聴覚障害者会

渡口敦子さん、遠藤征美さん、長谷川昌子さん、堀一子さん

長谷川昌子さん

こんばんは。聴覚障害について一人でお話するよりも4人がそれぞれ話した方が顔も覚えてもらえ良いと考えました。短時間一人ひとりがお話するので、まとまりを欠くかと思いますが聞いて下さい。

まず、自己紹介です。長谷川昌子と申します。私は6歳の時に耳が聞こえなくなりました。理由はおたふく風邪の高熱が原因です。補聴器を使っていますので低い音は聞こえるのですが言葉は分かりません。相手の口元を見て読話しながら、コミュニケーションしています。



遠藤征美さん

皆さま今晚は。声は出ますが今日は手話通訳を要望しました。遠藤征美(ゆくみ)です。生後1歳1カ月の時に高熱のために治療薬としてストレプトマイシンを注射しました。そのせいで聞こえなくなりました。感音性難聴です。音は聞こえますが、言葉は入ってきません。学校では読唇、口話という口の形を読んで相手のしゃべっている言葉を学びました。色々勉強しました。生まれつき聞こえないという方だけでなく、他の理由で聞こえない方が沢山います。昔の教育は厳しく、いまは教育が変わってきて、ろう学校でも手話を使って学べるようになりました。私は聾学校を4カ所変わっています。高等部を卒業してから普通の専門学校に入りました。学生100人の中で聞こえないのは私一人だけでした。通訳はありませんでしたので自分の努力で勉強をして無事、卒業しました。とても苦しい大変な思いもしました。仕事は大手町の会社に勤めました。定年まで仕事に通っていました。衛生設備の建築関係の会社です。一つ残念だったのは会議があってもコミュニケーションができず、遠慮してなかなか参加することができませんでした。そうした苦しい面もありましたが、楽しいこともありました。仕事は長年勤めていましたが、休暇を取って海外旅行に35回ぐらい行きました。手話通訳の同行はなく、個人・夫婦で参加しました。私は観光という遊びだけではなく、遺跡とか歴史が好きなので、世界遺産とかそういうのを見て回るのが好きでした。古跡を見たりしました。歳を重ね、またテロなどが起こっているの、最近では行かなくなりました。その代わりに、日本の古跡、歴史のあるところを回っています。海外旅行に行くときにまず旅行会社と交渉するのですが、時間を守り、皆さんに迷惑をかけないように、集合時間を守るように、また、コミュニケーションが可能な



いので、あらかじめ勉強して旅行に臨みます。旅行会社によっては難聴者、聞こえない人は参加できないという会社もあります。でも私たち夫婦は勇気を持って交渉し、問題無く海外旅行に行くことが出来ました。もし、何か起こった時に、例えば火災とか事故が起こった時の連絡方法が困ると良く聞かれます。そんなとき使っているのはアラーム付きの時計、それを添乗員の方とかホテルの方が持って、もう一つは私どもが持っています。そして、何かあった時の連絡方法としています。私たち聞こえない人は可哀想という訳ではなく、同じ人間として明るく、元気に過ごしています。積極的に旅行に行ったりして楽しんでいきます。

電話の呼び出し音は聞こえないので一番の問題は何だと思いますか？最近は、おれおれ詐欺などが問題になっています。電話がかかってくると音の代わりに、ピカピカと光るので、かかってきたことは分かりますが、電話には出られないので、引っかからないで済みます。以前は家の中で両親とは口話で話し、両親が不在の時は手話通訳を依頼していました。いまはスマホもあり、ファックスもあって便利になりました。聞こえない方の中には文章が苦手の方もいます。長文で書かれてもなかなか分かりにくいので、短文でお願いします。聞こえないから仕方がないではなく、一緒に努力していきたいと思います。

#### 堀一子さん

みなさん今晚は。私は耳が聞こえません。堀一子と申します。狛江市に暮らして45年位になります。手話講習会の助手、講師などを30年ほど担当しています。生徒さんに久しぶりに街中で会々と、あら！今日は！でも見覚えなし、忘れちゃったし、…、あ、堀先生ですかと言われてびっくりすることもあります。でも、いわれてうれしいです。手話を覚えていただくだけでなく、筆談、紙が無ければ手に書いていただいても結構です。メモが無くて手にも文字を書いて下さい。聞こえる人は空書をされても良く分からないと言われるのですが、ゆっくり書いていただければ私たちも通じると思います。もう一つ、私たち夫婦も高齢になってきたので、皆さんに手話を覚えていただいて、コミュニケーションができると楽しいと思います。皆さん、手話を覚えてくださ～い。



2011年3月11日2時46分でしたか、東日本大震災がありました。その時、私たち夫婦は新宿の喫茶店にいました。コーヒーが揺れるじゃないですか。店員さんが早く出て下さいと言われて、何が何だか訳が分からなかったのですが、6階から3階、そこからは階段で下まで降りて行きました。コーヒー代を払い忘れてしまいました（笑）。人がいっぱいいて、混んでいたのですが、みんな逃げてきました。沢山の人が集まっていますが、何が起こったか分からないのです。手話も通じないし、どなたかに書いて下さいと言ったのですが、取り合ってもらえず、1時間ぐらいいしてから、みんなどこかに行くのです。その方たちに付いて新宿駅の方向へ歩いて行きました。

京王線が不通になったと書いてありました。新宿駅のここで待って下さいということで、私たち夫婦はそのベンチに座って、3時頃からずーっと、手話で話した

がら待っていたのです。その時に、どなたかが、「聞こえないのですか?」、と声を掛けてくれました。多分手話をしていたのが見えたのでしょう。そして男性が見えて、「僕は手話がちょっとできます、何か手助けしましょうか?」、と一緒に座ってお話をしました。彼は情報を聞いては伝えてくれます。「まだ電車は動かないようです、もう少し待ちましょう。」その時、お腹はすくし、弁当買おうと思っても売り切れ、飲み物も無かったです。仕方なく戻って、また座って、お腹すくのを我慢して主人としゃべっていました。彼も同じく食べものも無く、午後11時40分頃、情報が入って、電車が動き出したことが分かりました。私たちはほっとして走ってホームに行きました。もう、すごい人で電車は満員、やっと国領駅に降りて、歩いて家まで帰りました。家の中は特に壊れているものはありませんでした。12時ちょっと前に駅に着きました。近くのレストランで食事をして、1時40分頃に帰って寝ました。そう言う時に、コミュニケーションができないからと遠慮せず、積極的に声を掛けていただきたいです。震災の時も、どなたかに紙に書いて聞いたのですが、誰もが皆不安だったのだと思います。何が起きているのか教えてはくれませんでした。

たまたま、手話ができる彼が助けてくれたのですが、同じように私たちも情報が無いので助けて下さい。

もう一つ、私たち夫婦は聞こえません。もし、倒れた場合、電話連絡もできません。倒れていたり、具合が悪そうだったら助けていただきたいと思います。まえ、主人が59歳の時でしたか、夜中の3時頃頭が痛くて、家の外に出たが、私が主人を背負って、近くの病院まで行きました。その後、通訳を頼んで来ていただきました。聞こえないということで大変な思いもします。やっぱり、コミュニケーションすることが一番大事ですね。手話ができる方が増えてほしいと願っています。皆さん、聞こえる方たちも私たちの気持ちをわかって手話を、できる範囲でやって欲しいと思います。たとえば、アタマがイタイ(手話動作)、分かります? これが「アタマがイタイ」なんです。大丈夫?と胸のところを右左に「ダイジョウブ?」と優しくたたいて下さい。お願いします。

#### 渡口敦子さん

皆さん、こんにちは。私は渡口敦子です。よろしくお願ひ致します。私は3歳のころ、高熱が出て、突然、両耳の聴力を失いました。全く聞こえなくなってしまいました。誰の声も聞くことができません。その時はたまたま、父の会社の関係の転勤のため、家族は海外で暮らしていました。

その時に、何か悪い病気がうつったのかどうか分からないのですが、高熱のせいで耳が聞こえなくなりました。

戦争が終わって、戦後、家族みんなで日本に帰ってきました。その時は7歳になっていました。そしてどこの学校に入るのか、情報も無く、全く分かりませんでした。両親が迷っているうちに、私は7歳を過ぎていたのですが、良い紹介をしていただいて、日本聾啞学校に入学することができました。自宅か



ら遠い桜上水でした。電車で通学しました。その学校は手話を全く使わず、口話だけで教育する学校でした。先生方も手話を使わずに口話だけで勉強をしました。その後、卒業して、いくつかの会社を受けましたが、最後に生命保険の会社に入社することができました。そのときたまたま、1981年の国際障害者年の頃だったので、私たち（障害者も比較的スムーズに）入社することができました。その時は手話の普及が無く、一般の人は手話が分からず、もちろん口話も読みとれないので、会話ができませんでした。筆談はしていただきましたが、仕事の内容を教えていただくときも本当に大変でした。私はパソコンを覚えました。卒業して、1964年の東京オリンピックの年に結婚して、息子が一人います。息子も51歳になりました。狛江市で暮らして51年になります。息子は結婚して狛江以外の地域で生活しています。健常の息子とは手話を全く使わず、口話だけで会話していました。いまは息子と離れていて、たまに食事に誘ってくれますが、そのときも手話は使わずに口話で会話しています。昔と今を比べると、昔は電話も無く、ファックスも無く、誰かが訪ねてきても、誰なのか、ノックの音も聞こえないとても不便な生活をしていました。いまはファックスやスマホ、インターネット、電車に乗れば電光掲示板で駅名や降りたい場所なども分かるようになりました。また、病院に行っても、昔は名前を呼ばれても分かりませんでした。いまは番号が出るようになりました。本当に変わってきたと思います。スーパーに行くことも多いのですが、昔は決まったお店でしか買うことができませんでした。昔はとても不便な生活でしたが、自動販売機も増えて、いまは本当に変わってきました。現在は狛江の中で活動をしています。聴覚障害者会とサークルで活動しています。狛江の慈恵病院の近くの団地で生活しています。51年間、ずーっと暮らしています。もう高齢になりましたが、聞こえない方たちとコミュニケーションをとりながら、生活しています。いまは手話通訳も増えて、用事等何か通訳をお願いしたいときに社会福祉協議会にお願いすれば通訳の方と一緒に通訳をお願いすることができます。特に不便はないけれど、高齢で一人暮らしです。何かあるかもしれない不安は持っています。

あと一つだけ、東日本大震災が起きましたよね。そのとき家にいました。2階の人が私のことを呼びに来てくれました。本当は家の中に居た方が安全かと思ったのですが、わざわざ呼びに来てくれたので外に出たという経験があります（笑）。本当に助けてくれてありがとうございます。近所の方とはコミュニケーションができています。私の話はこの辺で終わりにします。

長谷川：いま3人から話をしましたが、何かご質問がありましたら、どうぞ。

質問1：初めて聞く話もあり、勉強になりました。外を歩いている時、聞こえない方は全く分かりません。分かるようなマークをつけるとかはしないのでしょうか？

答え：聞こえないことを公にすることになりますが、確かにそうしたことを考える必要があるかもしれません。

質問2：手話通訳派遣、どんな時に派遣されているのか教えてほしい。

答え：通訳を必要としているのは遊びではありません。例えば、病院に行く時、交渉する時などです。

通訳者には、情報を等価で伝える通訳をして欲しいです。警察に行つての免

許の手続き等の場合も通訳は必要です。また、講演の時にも通訳してもらいます。何も分からないと眠くなってしまいます（笑）。担当者の場合はOHP、ここに文字が出ますのでそういう方法もあります。私たちには手話通訳がやっぱり必要です。

手話以外にも、要約筆記があります。狛江市には手話通訳とは別に要約筆記の講習会があります。

質問3：スマホを使った手話通訳の翻訳機というのは開発されているのですか？

答え：文書としてはあまりない。使用料が発生するということもあります。ラインのビデオ電話があります。

質問：多分、将来的には通訳ができるように思います。手話しているところを映してもらって、それを…。

答え：一対一で、ラインで手話した場合にお金がかかる。メールができるのでスマートホンで待ち合わせの時、とても便利になりました。聞こえない人が聞こえる人にメールしたり、スマホが無い時は電話ですが、近所の方にお問い合わせしました。

昔はスマホが無いのでファックスのやり取りでした。待ち合わせの場所に行くが、いまは便利になりました。場所を間違えても、すぐに連絡が取れ、会うことができます。昔はファックスだけなので、場所を間違えると会えないまま待ちぼうけです。諦めて帰ってしまいます。いまはとても便利です。スマホは便利ですが一つ注意したいことがあります。絵文字がありますね、それを載せてもらうと分かりやすいです。文章を長々と書かれても意味がなかなか分からなかったこともあります。

長谷川さん

まとめをしたいと思います。「聴覚障害について」という資料をご覧ください。

まず、聞こえない・聴こえにくいて、どういうこと？ですが、コミュニケーションが取りにくく、孤立しがちです。そうならないように。手話の他にも色々コミュニケーションの方法があります。

聴覚障害者を大きく分けると4種類。

ろう者：生まれつき、または言語を獲得する前に聞こえなくなった人。主に手話を使っています。

中途失聴者：言葉を獲得後、何らかの理由で全く聞こえなくなった人。突然聞こえなくなった喪失感は大きく、立ち直りに時間が掛ります。

難聴者：軽い人から重い人まで幅があります。軽い人は補聴器を使うことで歪みが改善されます。重い人ほど補聴器の選択が大変で、メガネのように簡単にはいきません。一旦合わせても、合わなくなることがあります。少しずつコミュニケーションが改善される。

老人性難聴者：いま、人生100年といわれています。歳だからしかたがないで済ませられる時代ではありません。残りの人生をどう生きていくのか考える必要があります。耳が遠いと感じたら、まず耳鼻科に行き、聴力検査を受け、その結果にあった補聴器を選びます。補聴器を選ぶときは慎重に。

聞こえない人とのコミュニケーションですが、手話ができないとダメみたいに

思わないで下さい。いろいろな方法を使って話をしてみてください。話すときは口形をはっきりさせて、ゆっくり目に。後ろからいきなり肩をたたきせず（びっくりする）、顔を向き合わせてから話を始めて下さい。

他にもいろいろな方法があります。伝えたいという気持ちがあれば、必ず伝わります。

今日は、私たちの話を聞いて下さり、ありがとうございました。



質問に答える左から長谷川昌子さん、渡口敦子さん、堀 一子さん、遠藤征美さん